

必要経費の目安

ご旅行代金の他に別途下記の料金がかかります。
※詳細は、渡航手続き書類にてご案内申し上げます。

- ◆空港施設使用料 / 国際観光税 / 海外空港税・燃油特別付加運賃 (30,000円) 上記は2024年9月現在の金額です。航空券の発券時点でレートは変動いたします。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。
- ◆渡航手続諸費用 (パスポートを新規取得、更新の方): パスポート新規申請代 (5年用 11,000円 / 10年用 16,000円 / 各自治体の戸籍謄本・住民票発行手数料や写真代別途要) このご旅行には2024年12月30日以降のパスポート有効期限が必要です。(+2週間以上の有効期限が望ましい)
- ◆お一人部屋追加料金: 35,000円 (ホテルは基本2名一室です)
- ※お一人参加で相部屋をご希望の場合、最終的な部屋割りによってはやむを得ずお一人部屋追加料金を頂戴することがございます。予めご了承くださいませ。
- ◆任意の海外旅行保険
- ◆超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
- ◆個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用 (食事代、飲み物代・自由行動時の諸費用等)
- ◆ご自宅～発着空港までの交通費



ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」(募集型企画旅行契約)によります。この旅行は2024年9月1日現在を基準としています。
■旅行契約の解除
参加者が最少催行人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。この場合は出発の23日前迄にお知らせします。
<取消料>
お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。
<解除時期・取消料>

契約の解除期日	取消料
旅行開始日前日から起算して遡って40日前以降	旅行費用の10%
旅行開始日前日から起算して遡って30日前以降	旅行費用の20%
旅行開始日前々日以降	旅行費用の50%
旅行開始後の解除または無連絡不参加	旅行費用の100%

ご旅行要項

- 旅行代金に含まれるもの
 - ①企画手配料金および手配料金
 - ②交通費: 旅程に明示した航空運賃、旅程に明示した専用車料金
 - ③宿泊費: 下記ホテル又は同等クラスのホテル(弊社基準)基本宿泊料および税、サービス料 台北=第一ホテル ※基本2名一室です。
 - ④食事代 (Aコース朝食3回/昼食2回/夕食3回)
 - ⑤見学施設の入場料
 - ⑥ガイド代
 - ⑦現地協力者の謝礼・同行費用・交流代
 - ⑧通訳者・講師謝礼・同行費用 ⑨添乗員1名同行費用
- 旅行代金に含まれないもの
 - ①旅程表以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
 - ②超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
 - ③個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用・食事の時の飲み物代・自由行動時の諸費用等
 - ④航空会社が課す 成田空港施設使用料・国際観光税・海外空港税・燃油特別付加運賃(30,000円)2024年9月現在※航空券の発券時点でレートは変動します。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。⑤海外旅行傷害保険料
 - ⑥日本国内の交通費、前泊の費用 ⑧お一人部屋料金 (35,000円)

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第84号 JATA正会員 ●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで


株式会社 富士国際旅行社 〒231-0062神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7 ヒューリックみなとみらい11F-4
総合旅行業務取扱管理者: 西須 輝理

TEL: **045-212-2101** FAX: **045-212-2201** 営業時間: 月～金曜日 / AM10:00～PM6:00 (休業日: 土日・祝日)
henshu@fits-tyo.com 担当: 山田・金光・西須 ホームページ: <http://www.fits-tyo.com/>

お申込方法

- ①【紙でお申込みの場合】下記の予約票にご記入いただき、富士国際旅行社宛に郵送またはFAXでお送りください。予約票が届き次第、旅行社より取引条件説明書面とお申込書を他の必要書類とともにお送りいたします。
- ②【ウェブで仮予約の場合】下記QRコードにアクセスし、仮予約フォームを送信下さい。
- ③弊社よりお送りするご案内書面に記載の銀行またはゆうちょ銀行に、**申込金50,000円**(旅行代金内金)をご送金ください。(申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込)
- ④ツアー実施確定後、弊社よりご連絡いたします。
- ⑤出発2～3週間前に旅行説明会を行います。(オンラインと会場両方可)

参加予約票 株式会社 富士国際旅行社 宛
ひまわり運動から10年 平和と人権を市民同士で考える旅 2024年12月26日(木) 発

パスポート ローマ字表記	性別	生年月日	年 月 日生れ ()才	ウェブ仮予約はこちらから↓
氏名	男・女	パスポート	有効旅券(パスポート)【有・無】 パスポート番号: 有効期限: 年 月 日	
住所	(〒 -)	発着希望空港に○ (羽田 ・ 関西) ※関西空港ご発着の方は別途 ご料金をご案内いたします。		
連絡先	【tel】() - - 【fax】() - - 【携帯】 - - 【e-mail】			



旅行期間 2024年12月26日(木)～12月29日(日)

旅行代金 238,000円 (羽田発着) ※費用の他に航空便費用に付随する海外空港税・航空保険料等・成田空港施設使用料・保安料30,000円がかかります。発券時のレートにより変動いたします。差額は返金・又は集金させていただきます。

定員 20名様 (最低実施人員15名) ※関西空港発着ご希望の場合、航空便に空席があれば可能です。空席・ご料金は旅行社へお問い合わせください。

申込締切 11月22日(金) 添乗員 羽田空港から同行します。

旅のおさそい

「親日」と言われる台湾、「ジェンダー平等が先進的」「若者の投票率が高い」と民主主義が進んでいる台湾、そして最近になって「台湾有事」というキーワードで語られる台湾。日本の植民地から戦後国民政府による統治へ、隣の島の住民は戦後東アジアの時勢に影響されながら、激しい社会変化を生きてきました。戦後の歴史と民主化の進展がわかるスポットを回り、現地の市民と交流してみませんか。



台湾大学社会学専攻卒業、琉球大学大学院社会科教育コース修了。
現在はアジア・太平洋戦争の歴史、平和学習の取り組みに携わっている。高校生の台湾修学旅行の事前学習を手伝う日本台湾教育支援研究者ネットワーク(SNET台湾)でも活動している。

※写真は全てイメージです

CHECK POINT

- 台湾における日本軍による性暴力と、戦後市民団体の取り組みがわかる
- 政治犯が押収される刑務所跡など人権侵害の記念館など、独裁政権と民主化の歴史を理解する
- 戦後「中国」との関係の複雑性について、金門島に行って学ぶ
- 若者の政治参加を巡って現地で活動した方と交流する

Peace Green Humanity
旅行企画・実施 (株) 富士国際旅行社

ひまわり運動から10年 平和と人権を市民同士で考える旅

日付	都市	交通機関	行程・宿泊地・食事(朝・昼・夕)
① 12/26 (木)	羽田発 台北松山着	航空便 航空便 専用車	羽田空港午前6:00集合(前泊手配承ります。別途料金) 空路✈台北松山空港へ【時差:日本側が1時間進む/所要3時間40分】 ※関西空港発ご希望の方はお問い合わせください(関空集合午前8:00予定) 日本語ガイドのご案内で、台北市内見学 <台北市内見学> ●台湾総統府(外観) ●二二八和平紀念公園(モニュメント) 外観 ●二二八国家紀念館(入館) 夕食レストランにて参加者交流会 夕食後、夜市見学 ホテル着、チェックイン 台北泊 朝×昼機夕〇
② 12/27 (金)	ホテル発 ホテル着	専用車	<台北市内見学> ●国家人権博物館(入館) >かつての国家権力による理不尽な人権抑圧の歴史を伝える博物館 ●阿嬷(アマ)の家・平和と女性人権館(入館) >「慰安婦」の調査・支援を行う婦女救援基金会在が設立した博物館 ●鄭南榕基金会・紀念館 >100%言論の自由を求める活動家の元雑誌社事務所からなった資料館 政治活動に参加した若者世代との交流会 台北泊 朝〇昼〇夕〇
③ 12/28 (土)	ホテル発 松山空港発 金門空港着	MRT 航空便 専用車	早朝ホテル発、MRT(台湾の地下鉄)にて松山空港へ移動します。 空路✈金門島へ(所要1時間20分) <金門島見学> *特約茶室展示館(戦後軍に性的サービスを提供する施設) *翟山抗道(Zhaishan Tunnel) *金門島と小金門島を結ぶ金門大橋を通り小金門島へ *湖井頭戦史館(Hujingtou War Museum) *北山放送壁(廈門に向けたテレサテンの放送) *金城民防坑道 *市内街歩き 夕食後、金門空港へ 空路✈再び台北へ(所要1時間10分) MRTでホテルへ移動 台北泊 朝弁昼〇夕〇
④ 12/29 (日)	ホテル発 博物館着 台北桃園発 関西空港着 台北市内着 台北松山発 羽田空港着	専用車 航空便 航空便	ホテルチェックアウト、順益台湾原住民博物館へ ●順益台湾原住民博物館 >関西空港へお帰りの方は、桃園空港へ移動 日本語ガイドが空港までお見送り。飛行機内はお客様のみです。 空路✈関西空港へ【所要時間:2時間40分】(関空16:30頃着予定) >羽田空港へお帰りの方は、市内着後、昼食休憩(自由食)と自由行動(迪化街) 空路✈羽田空港行・帰国の途へ 羽田空港22:15頃着予定(後泊手配承ります。別途料金) 朝〇昼×夕機

- 手配上・現地のご都合により、訪問日時や順序が入れ替わる場合がございます。金門島への航空便は機材が小さいため、分便になる可能性がございます。
- 旅程表のマーク:〇=食事付き、X=自由食、機=機内食 ●利用航空会社:エバー航空、ユニエアー、マンダリン航空
- 宿泊予定ホテル(基本2名1室)下記ホテル又は同等クラスのホテル(弊社基準):台北=第一ホテル

台湾基本情報

面積: 3万6197 km² 人口: 約2323万3千人(世界年鑑2023) 言葉: 中国語
時差: 日本より-1時間 電圧: 110ボルト(V)、60Hz ※プラグの差込口は日本と同じ 通貨: ニュータイワンドル
気候: 南北に細長い台湾本島は、中央を通る北回路帰線を挟み、北が亜熱帯気候、南は熱帯気候に分けられる。
台湾は、1年中温暖で、明確な四季はなく、長い夏と短い冬がある。

台湾味の魅力

台湾料理とは、台湾で食べられる中華料理のうち、主に福建料理をベースとして、台湾で発展した郷土料理です。「食は台湾にあり」といわれるほど、台湾には美味しいグルメが充実しています。定番は小籠包や魯肉飯(ルーローハン)、台湾スイーツや屋台グルメも観光客に人気です。はじめてでも気軽に入れるお店が多く、日本語メニューを用意しているお店もあります。



金門島

金門島は、西は中国大陸福建省のアモイ市から2 km、東は台湾海峡を隔てて台湾島と約200 kmの位置にあります。金門島の他に烈嶼(小金門)、大胆、二胆など15の島で金門群島と呼ばれています。そのうち3つの島は中国の直接統治になっており、台湾の金門県は12の島々で構成され、総面積は約150 km²です。亜熱帯気候に属し、年平均気温はおよそ21度。朝晩と日中の気温差が大きいのが特徴です。

日中戦争中は日本軍に占領されていました。日本の降伏後、第二次国共内戦が勃発。「古寧頭戦役(こねいとうせんえき)」(1949年)をはじめ、金門島は一時期中華民国政府と中国共産党の対立の最前線になり、砲撃なども続いていました。中華民国政府が台湾へ移って以降は、中華民国軍の軍事的拠点となり、一般観光客による金門島への出入りは厳しく制限されます。島には当時最大約10万の軍隊が駐屯し、住民は軍事施設の建設など、軍隊を支えるために駆り出されました。1987年に台湾戒厳令解除された後、現在は台湾島だけでなく中国からも多くの観光客が訪れる島となっています。

島には多くの戦争遺跡が残され、歴史を伝えるため広く公開されています。かつての地下坑道、要塞、トーチカ、戦車、大砲などを見ることができ、歴史を学ぶ場として活用されていることが分かります。また、伝統的な古集落も金門島の見どころの一つ。独特な自然風景、台湾島とは一味違う料理をお楽しみいただけます。



旅のポイント・見学先

阿嬷(アマ)の家・平和と女性人権館

台湾の人権団体「婦女救援基金会」は、貧しさのために女児が売春に追いやられる人身売買の防止をめざして、1987年に設立された組織です。以来、1992年からは台湾の「慰安婦」問題の解決に向けた活動と被害者支援を始め、2016年末に台湾初の「慰安婦」資料館、「阿嬷(アマ)の家・平和と女性人権館」を開館。新型コロナウイルスの影響で一時的閉館となりましたが、2021年夏に移転・再開しました。



二二八国家紀念館

～終戦後(1947年2月28日)、外省人と本省人の間に起こった事件～



第二次世界大戦終了後、台湾が中華民国に接收された後に起こった二二八事件についての記念館。やみタバコを売っていた女性が取締官に殴られ、近所の住民が殺されたことを契機として、国民党政府に対する住民の抗議活動が全国各地に広がりました。この抗争に対して国民党軍は台湾住民の虐殺を開始し、公式には2万8千人も住民が犠牲になったといわれています。

ひまわり運動



2014年に台湾で発生した学生主導の抗議運動。台湾政府と中国との間で交渉された「サービス貿易協定」が不当な審議過程で可決されようとしたことへの反発として、3月18日、学生と市民は立法院(台湾の国会)を占拠し、協定の撤回を求めた。審議過程の問題だけでなく、関連産業への悪影響、中国の影響力が台湾に強く及ぼすことへの懸念、新自由主義の経済政策など様々な側面から反対の声が上げられ、台湾社会で広範な支持を集めることができた。最終的には協定の審議が停止される結果をもたらした。24日間にわたる占拠を終えた。運動はその後、関与した人による新しい政党の結成や国会での議席取得、若者の立候補と政治参加、そして様々な政治社会問題に対する社会全体の関心度の高まりなどにもつながった。台湾における民主主義と市民参加の象徴的な出来事として記憶されている。

鄭南榕基金会・紀念館

鄭南榕さんは、戒厳令下の1984年に100%言論の自由を訴える「自由時代」雑誌を創刊し、二・二八事件の真相究明を訴えるなど、取り締まりの圧力に抗しながら活動しました。戒厳令は1987年に解除されましたが「反乱罪」は改正されず、雑誌の内容で反政府の罪を問われた鄭南榕さんは言論の自由を侵害する不当逮捕に抵抗するために、1989年1月21日から雑誌社の事務所に自分自身を閉じ込め、4月7日突入逮捕時に焼身自殺を選ばれました。焼けたまま残された雑誌社は現在基金会の事務所と記念館となり、言論の自由と民主主義を求める活動を継承しています。

国家人権博物館(白色テロ景美紀念園区)

「白色テロ景美」(当時新店二十張景美軍事拘留所)は戒厳令下の軍事、政治、治安に関する事件が裁判され、政治犯などが拘留された場所でした。多くの政治犯がここで拷問されてから死刑または懲役刑を宣告され、劣悪な環境で監禁されたり、処刑されました。台湾の人権侵害を知る場所として、現在は離島である綠島の元刑務所とともに国家人権博物館となっています。